

自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース
(保健体育) / 田中 弘之

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

これまで、私たちの研究グループが独自に開発してきた頸動脈血流速度波形解析システムに関する研究を継続し、科研費への申請に関しても精力的な応募を続けてきた。ただ、非常に広範囲な学際領域であり、経産省や厚労省関連の補助金獲得も視野に入れているため、研究の焦点が明確化されていない嫌いがあり、改善を要する点である。

今年度は、分担的役割として、体力医科学研究に視座を置き、アインカインティック運動に特異的な頸動脈血流速度波形の消長に関する機序の解明に取り組む予定である。この成果を基本として、安全で効率的な運動処方策に関する資料を模索する予定である。

2. 点検・評価

徳島大学の諸研究部と連携し、独自開発とその改良を重ねてきた頸動脈血流速度波形解析システムを駆使した体力医科学研究に視座を置き、アインカインティック運動に特異的な頸動脈血流速度波形の消長に関する機序の解明に取り組む、各種の学会においてその成果の一部を発表した。来年度に向けて、さらなる共同研究体制の充実と研究の深化を企図し、文部科学省、経済産業省及び厚生労働省関連の補助金獲得のための基盤の整備に努めたい。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

入学定員・教育研究組織見直し検討委員会の資料に拠れば、近年の保健体育コースの定員充足率は、100%を超えており、これまでの地道な定員確保への取り組みが結実していると思われる。

ただ、これに留まることなく、より意識水準の高い大学院生の確保を念頭に、本コースが構築してきたノウハウを大切にしながら、四国出身者のUターン願望に応えられるような特色あるコースの整備に努めたい。

2. 点検・評価

日本体力医学会、運動生理学会、日本体育学会等、各種の全国大会並びに地区大会等において、長期履修等の本学の特色ある制度について詳述し、定員充足率向上のための活動を展開した。数校の私立大学学部3年次生から、直接、受験に関する照会を受けるなど、次年度に向けての受験予定者の感触もよく、定員確保に対する方略も鋭意進行中である。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ① これまで、週2回の頻度で継続してきたゼミ生に対するランチョンセミナーは、教科の専門性だけでなく、一般教養を高めるための就職支援対策として奏功してきたとの自負がある。今年度は、附属学校部長の職責との調整が必要となるが、方略に創意工夫を重ねたい。
- ② ラグビーフットボール部、サッカー部、創作ダンス部の顧問教員として、課外活動の指導等に熱意を傾注し、多面的な方向性をもって、豊かな創造力を有する教員の養成に努めてきた。これも上記と同様に、継続に向けて、有機的な調整に努めたい。

2. 点検・評価

就職支援対策として、週2回の頻度で継続しているゼミ生に対するランチョンセミナーのほか、エントランスシート等の添削にも助言を行い、教員採用試験において、2名の学部学生が小学校教員として正規採用された。また、警察官を志望していた大学院生も首席合格を果たし、大学院を中途退学して、現在は職務に精励している。

他方、課外活動として、サッカー部、創作ダンス部の活動を支援するとともに、最も指導に情熱を傾注しているラグビーフットボール部は、今年度も春先の四国インカレで準優勝し、秋季の四国地区大学リーグも勝ち抜き、中国・四国地区大会準決勝にまで進出した。また、兵庫教育大学ラグビーフットボール部との定期戦にも勝利を収めた。

II-2. 研究

1. 目標・計画

- ① 学外者との共同研究の連携を強固に推進し、自己の専門分野に留まらず、巨細な学際的な観点から、教育実践学の構築に努める。
- ② 教育・研究活動における成果の公表に努める。

2. 点検・評価

継続課題である頸動脈血流速度波形解析システムに関する研究は、本年度も順調に推進し、国際学会での発表およびプロシーディングに取りまとめることができた。ただ、教育実践学への志向として、学校体育の現場で注目を集めている教材としてのラグビーのさらなる発展系に関する研究成果は、研究の独自性に関する見解の相違があり、学術誌への掲載が遅れている。視座の再構築を企図して、次年度に向けてさらなる研究の深化に邁進したい。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

- ① 附属学校部長の職責を果たすとともに、各種委員会委員等として、大学運営の分掌に努める。
- ② 大学運営に関する問題点・発案等について、積極的に提言する。

2. 点検・評価

附属学校部長として、週4回の附属学校勤務を兼担し、附属学校部掌理の職責を果たした。殊に、文部科学省の研究開発学校制度や特別経費によるプロジェクト研究に関する委員も兼務し、地域へのセンター的役割に関する附属校園の在り方について考究した。

また、附属学校部会議、附属学校運営委員会のほか、総務委員会、教育研究評議会、人事委員会、施設設備委員会、予算・財務管理委員会、人権教育推進委員会等の委員会活動を通して、大学運営に積極的に関与した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

- ① 附属学校部長として、年度計画に掲げられている事項に関して、大学と附属校園との連携をより一層緊密なものにし、着実な成果があげられるよう努める。
- ② 附属幼稚園が文部科学省の研究開発学校の指定を受けて実施する幼稚園・小学校の接続カリキュラムの開発に関して設置される研究開発学校運営指導委員を担当し、連携に努める。
- ② 教育支援講師・アドバイザーなどとして、積極的に学校現場、地域主催研修会等に出向き、指導・助言を行うよう努める。
- ③ 教育委員会、学校など、学外における諸委員会の委員を積極的に引き受け、社会貢献に努める。

2. 点検・評価

附属学校部長としては、Ⅱ-3で既述したような活動に精励した。

教育支援講師・アドバイザーとして、積極的に学校現場、地域主催研修会の講演講師を務めたほか、公益財団法人徳島県体育協会が主催するスポーツ科学セミナーの講師も多数担当し、県内の各種競技団体の競技力向上に努めた。

また、徳島県教育委員会の依頼による各種の講演講師のほか、子どもの体力・運動能力向上対策委員会においても副委員長を務めた。

さらに、今年度開学した徳島県立鳴門渦潮高等学校との高大連携委員会委員としての職務も果たし、地域への社会貢献にも努めている。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)